

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和5年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和5年8月22日(火) 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 水戸市役所2階 市民協働会議室こみっとルーム1・2
- 4 出席した者の氏名
(1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 渡辺 賢治, 谷萩 美智子, 大竹 隆志,
鹿倉 よし江, 檜村 晶洋, 小島 幸子
(2) 執行機関 【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮,
副参事兼課長補佐 入野 高司,
協働係長 橋崎 真哉, 主事 松川 のぞみ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働推進基本計画(第3次)の策定について(公開)
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称 (資料1)水戸市協働推進基本計画(第3次)策定基本方針
(資料2)水戸市協働推進基本計画(第2次)の取組
(資料3)水戸市協働推進基本計画(第3次)構成案
- 9 発言の内容

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
委員長	本日は, 水戸市協働推進基本計画(第3次)(案)について協議する。
事務局	[水戸市協働推進基本計画(第3次)策定基本方針 計画策定の趣旨・基本的姿勢、計画の構成及び期間、計画策定の体制等について説明]

委員	<p>[計画策定スケジュールについて説明]</p> <p>[水戸市協働推進基本計画（第2次）の取組基本方針，主な成果，課題及び今後の方向性について説明]</p> <p>[水戸市協働推進基本計画（第3次）構成案第1章から第5章について説明]</p> <p>第3次計画について，「見直しのうえで継続」の実施事業があるが，その理由を教えてください。</p>
事務局	<p>例えば，「市民活動情報サイトこみっと広場」に関しては，単独のWebサイトとして公開していたが，セキュリティを高めるため，令和5年8月に水戸市のサブサイトとして「市民活動情報サイトこみっと広場」をリニューアルした。第2次計画期間中に内容を見直したが，事業として継続しているため，「見直しのうえで継続」と表記している。</p>
委員	<p>以前のこみっと広場のセキュリティに問題があったのか伺いたい。また，市民協働部のページからアクセスできるようにサイトを見やすく改良してほしい。</p>
事務局	<p>実際にセキュリティの問題はなかったが，外部サイトはウイルス等の危険性が高い。市として外部サイトを設けない方針となり，市のサーバーを通して管理することで安全性を高めることができるため，市のホームページとして移行する運びとなった。</p>
委員	<p>こみっと広場は，各市民活動団体がSNS等を使って情報発信を行っている状況を踏まえた仕様となっていると思うが，こみっと広場を団体の情報交換の場としてどう活用していくのか。</p>
事務局	<p>こみっと広場の活用については，団体登録制度を設けており，環境や子ども等の分野別に登録していただく。団体間で連絡をとりたい時は，各団体のページに掲載されている連絡先を探しやすいよう表示し，市から団体へ連絡する時は登録団体のメーリングリストを活用して情報提供を行っていく。</p>
委員	<p>ボランティアが必要な時に機能するよう継続的に閲覧されるサイトをつくっていただきたい。団体のリストを並べるだけでなく，運用状況を精査し，団体間の連携に寄与するサイトになるよう工夫していただきたい。</p>
委員	<p>内閣府では情報ポータルサイトを運用しているが，各市民活動団体はホームページやSNS等で活動情報を発信していることが分かる。行政は大まかな団体情報について掲載する必要はあるが，日常的な活動情報の発信は団体に任せて問題ないと思う。チャレンジいばらき県民運動のサイトにおいても団体の基本情報とリンク先のみを掲載している。市のサーバーを通すことで検索した時に上位に上がる利点があり，情報の正確性も担保されるため，年1回は団体情報の更新をしていただければ方向性として賛成である。</p>

委員	過去の協働推進事業わくわくプロジェクトについて、提案団体に偏りが見られる。デジタル技術を用いて分かりやすい情報提供を行い、より多くの団体に参加していただきたい。既に協働事業を行った団体の事業継続だけではなく、新しく協働事業を始めるきっかけづくりに励むべきである。こみっと広場の団体情報についても、リストが存在するだけにならないようネットワークを活用してほしい。
事務局	めざましく進化しているデジタル技術を活用していきたい。AIやChatGPT、スマホアプリやマッチングアプリ等の媒体を用いて市民が気軽に活用しやすいものを施策として検討していく。
委員	活動ポイント制度の検討について、笠間市では活動ポイント制度を導入していたが、維持管理にコストがかかり、費用対効果が悪く、県内外の自治体において廃れている状況である。水戸市の下市地区では、ポイントによる特典を導入しているところもあり、地域振興につながる部分もあるが、ポイントが偽造される恐れもあり、市民活動の促進につながりにくい点から賛否が分かれているため、見直す必要がある。
委員	活動ポイント制度は有効に活用できる可能性もあるため、情報を精査し、実施の可否について検討する必要がある。活動ポイント制度の検討の実施は、実際にポイント制度を実施したことにはならないため、目標の数値化を行い具体化すべきである。
委員	こみっと広場の団体登録制度は分かりにくい部分がある。高齢者にはなじみにくいように感じる。社会福祉協議会にも団体登録しているが、市のサイトとどう区分けしていくのか伺いたい。 課題及び今後の方向性として、「市民が情報を得やすい環境づくりを進めていく」ことに賛成するが、こみっとフェスティバルに関しては、成功しているのか分かりにくい部分がある。来場者の年齢層が若い世代に偏っており、ボランティアに興味のある来場者が少ないように感じる。高齢者を含め幅広い年代の関心を引くイベントにしていただきたい。実際に、市民活動団体のPRのために効果的であるのか伺いたい。
事務局	こみっと広場については、社会福祉協議会と市の両方に登録していただくようになるが、社会福祉協議会と連携を図りながら活用していきたいと思っている。 こみっとフェスティバルは、平成24年度から実施している事業であり、市としては、NPOや市民活動団体が情報発信を行い、市民に活動を知っていただき、団体同士の交流を生むというこみっとフェスティバルの目的は果たしていると考えている。
委員	開催しているイオンモール水戸内原の1階は人目につく場所であるが、若い世代を対象としているように感じる。幅広い年齢層に届くように開催場所や広報の方法を検討していただきたい。
委員	こみっとフェスティバルについては、成果が見えにくい部分がある。例年ブースが並んでいるだけで変化がないように見受けられたが、昨年度は変化していた。コロナ禍を経て復活した成果や過去の

委員	<p>こみっとフェスティバルとの変化が外部にも伝わるようにしていただきたい。また、こみっとフェスティバルとわくわくプロジェクトをつなぐことで、わくわくプロジェクトの応募団体を増やしたい。</p> <p>こみっとフェスティバルに出展した経験があるが、会場の制約もあり、エリア内でできることは限られている。出展団体は福祉関係が多く、来場者の年齢層は幅広いように感じる。こども向けに企画を行うと保護者も興味を持ってくれることがあるため、来場者の注目を引くことができるような工夫をしていただきたい。特にステージにおける活動発表については、一般向けになるよう体制を見直していただきたい。</p>
委員	<p>課題に関して、過去12年間で延べ89団体がわくわくプロジェクトの採択を受けているが、現在の活動状況が不明である。わくわくプロジェクト終了後も市担当課との協働が継続されているのかどうか、さらには新しい事業として発展しているのか協働の実績を調査していただき、課題を検討したい。</p>
委員	<p>わくわくプロジェクトに関して、過去の協働事業の経過を一覧にいただきたい。千波湖環境学習会の事業は14年継続している。わくわくプロジェクトの広報については、こみっとフェスティバル会場におけるスクリーンで宣伝するのはどうか。</p>
委員	<p>市民協働会議室こみっとルームの利用率を教えてください。</p>
事務局	<p>水戸市役所本庁舎ができて間もなくコロナ禍となり、コロナ関係の特別本部として2年間使用できなかったが、現在は稼働率が上がっており、利用率は70パーセント以上である。こみっとルームはNPO・市民活動団体の情報発信や、市職員の立ち合いによる会議室としての使用、市民との交流を目的としてつくられた部屋であるため、当初の目的に合わせて使用していただけるよう周知したい。</p>
委員	<p>コロナ禍で数年間活動を停止していた団体もあるため、より多くの市民が使うことができるようにしていただきたい。こみっとルームを使用するために市民生活課や関係部署を通すことにはハードルが高いように感じるため、使いやすくなるよう見直していただきたい。</p> <p>また、第3次計画には、Withコロナやポストコロナの視点を入れるべきである。コロナに関して言及している他市の計画を参考とし、リモート授業やリモート会議が定着したコロナ禍を経て、有効なものは生かすべく今後の展望に組み込んでいただきたい。</p>
委員	<p>水戸市協働推進基本計画（第3次）構成案の第4章における若い世代に向けた体験機会の提供については、茨城大学や常磐大学がある自治体であるため、大学生が参画するきっかけをつくっていただきたい。子ども食堂等はシニアが中心となって活動しているため、大学生が参加することでシニアも喜び、良い化学反応が生まれると思う。大学生にとっても社会貢献できる貴重な経験となる。</p> <p>「団体活動の継続・発展に向けた支援」については、継続・発展だけでなく、解散に向けた手続きの支援を組み込むべきである。担い手不足で解散を迎える団体の中には、法律上どのような手続きを</p>

	<p>すればよいか分からない団体があり，終活支援のニーズは茨城県内においても高まっている。行政が解散にかかる手続きの支援をしていただきたい。</p>
委員	<p>若者の活動はどう展開しているのかを調査し，市民活動にどう取り込むことができるか検討する必要がある。若者向けにテーマを設けて定期的に情報を発信することも有効であると考え。昨年度のわくわくプロジェクトでは常磐大学生が参加したが，今後も継続していただきたい。若者との連携で生かされるものは多いため，今後の5年間は一部の学生だけでなく，多くの若者が経験できるように力を入れてほしい。協働推進委員も支援できることがないか検討していく。</p>
委員	<p>古河市や日立市では若者活動支援助成金があり，水戸市においてもわくわくプロジェクトだけでなく，若者向けに10万円程度の補助金を設けても良い。小口の補助金を設けて育成することで，最大50万円のわくわくプロジェクトに挑戦するきっかけづくりになる。</p>
委員	<p>賛成である。若者を育てるために若者向けの施策を優先していただきたい。</p>
委員	<p>賛成である。最大50万円のわくわくプロジェクトの補助だけでなく，若者を対象とする小口の補助金を導入していただきたい。</p>
委員	<p>こみっと広場について，若者が参加しやすい仕掛けをするべきである。こみっと広場にボランティア活動のページを作成して大学へ差し出したり，SNSを用いて発信することで大学生の活動の幅を広げることができる。</p>
委員	<p>水戸市の保和苑で水城高校生が和菓子店とコラボした菓子を販売していたため，わくわくプロジェクトについて知っているかどうか尋ねたが，知られていなかった。そのように地元のお店と連携して活動している団体もあるため，広報に努めていただきたい。</p>
委員	<p>情報発信をすることで若者が参加する可能性は大きく，大学等との連携を検討する必要がある。わくわくプロジェクトにおいて，若者からの提案が少ないことは課題であり，若者からの提案事業が最低でも単年度に1事業以上あると理想的である。他市ではアドバイザー制度を設けている自治体もあり，若者が困った時に相談できる窓口があると便利であると思う。専門的にアドバイスできる人を配置できるかどうかは課題であるが，5年後までに実現させてほしい。</p>
委員	<p>若者向けの小口の補助金の導入に賛成である。茨城大学や常磐大学には地域連携センターがあり，センターが自治体の情報を受理して学内に共有する仕組みである。地域連携センターや県内の連携センターを経由して情報を伝えることが学生や若者には届きやすいと考える。若者にチャレンジしてほしいとPRすることで参加してもらうきっかけをつくるべきである。</p>
委員	<p>「こみっとルームの充実」という表記があるが，「こみっとルー</p>

事務局	<p>ムの活用の促進」という意味なのか、あるいは、改装を検討しているのか伺いたい。</p> <p>こみっとルームの改装を意味しておらず、御指摘の通り、「こみっとルームの活用の促進」の表記に改めることを検討する。</p>
委員	<p>市のホームページやこみっとルームで情報発信を行う行政のノウハウやプラットフォームは整っており、今後はその需要を探すべきであると考えます。各団体にはグループライン等の情報を共有するシステムはあるため、若者を対象とするのであれば、発信力を強めて若者の間で流行らせる工夫をしたい。一度体験してもらうことができれば、若者の情報共有のシステムで情報が浸透するため、活用が期待される。実際に足を運ぶことで各団体にどのような情報共有のシステムがあるのかを聞き取りし、最初のきっかけづくりに励むべきである。</p>
事務局	<p>情報発信の基盤はある程度整っているため、他市を参考にして若者向けの施策に厚みを持たせていきたい。</p>
委員	<p>市民活動団体が大学内で学生向けにプレゼンをする機会を設け、それを動画配信することが効果的ではないか。プレゼン大会に賛同する団体があると思われる。大学生にとってもインターンシップや卒業論文の選択肢の1つとして考えてもらう良い機会になるため、営業活動をする価値はある。</p>
委員	<p>テーマを設けて若者向けに提案する機会を提供することに賛成である。こみっとルームにおいても若者向けに会議やフリートークのイベントを開催するのはどうか。こみっとフェスティバルについては市のバックアップが分かりやすい形で現れているが、他の施策についても発展させていきたい。</p> <p>市担当課に配置している協働推進員ナビスタッフについて、ナビスタッフ研修会が実施されているが、今後5年間の協働事業をどのように考えているのか、若者についての課題に関するアンケートをとってほしい。最終的に各担当課の協働事業の課題を抽出し集計していただきたい。</p> <p>第7次水戸市総合計画骨子案について説明していただきたい。</p>
事務局	<p>〔水戸市第7次総合計画について説明〕</p> <p>協働推進員ナビスタッフについては、今後の5年間に対する課題や意見を聞き取りし、計画に反映させていただく。</p>
委員	<p>第3次計画においては、関係部署との連携のあり方を明確にしてほしい。</p>
委員	<p>今後の施策の展開について、県庁所在地である水戸市内の茨城県の施設を有効活用できないか。また、チャレンジいばらき県民運動や生涯学習センターの施策は水戸市の施策と共通する部分があるため、役割分担をして連携すべきである。</p>
委員	<p>令和4年度に実施した市民1万人アンケートについて、協働に関する質問は1項目のみであったが、どのような意図でアンケートを</p>

事務局	<p>行ったのか伺いたい。また、計画策定に向けて更なるアンケートを今後実施することはできないか。</p> <p>市民1万人アンケートは第7次総合計画に向けて実施したものである。協働については1項目のみであった。協働のまちづくりアンケートについては、市民活動団体を対象に調査を実施した。今後さらに第3次計画策定に向けて市民アンケートを実施し、策定までに間に合わせることは難しい。</p>
委員	<p>協働推進基本計画（第3次）構成案の第4章における「2担い手の育成、支援」について、「2-1組織基盤の強化」と「2-2財政基盤の強化」を分ける意味があるのか伺いたい。「2-2財政基盤の強化」における「財政基盤の強化を目的とする研修の実施」や「助成金情報の積極的な提供」は組み込むべきであるが、2-1と2-2の項目は統合した方がまとまるのではないか。</p>
事務局	<p>第2次計画を踏襲した構成であったが、第3次計画において変更することは可能であるため、他市の計画も参考に検討させていただく。</p>
委員	<p>少子高齢化やデジタル化等の社会情勢が変化する中でポストコロナや外国人の視点を組み込むべきではないか。今後さらに外国人が日本に定住し、半生を水戸市民として生きる外国人が増えることが予想される。今後の5年間について、これらの視点を第3次計画に組み入れていただきたい。</p>
事務局	<p>第3次計画については、第1次・第2次計画では示されなかった具体的な数値目標を設定する方針である。次回の協働推進委員会では、それぞれの項目における数値目標を提出させていただく。</p>
委員	<p>数値目標については異議なしのため、記載をお願いしたい。</p>
事務局	<p>過去実施した協働事業については、調査と集計をさせていただく。また、協働推進員ナビスタッフに対する聞き取りも実施し、共有させていただく。</p>
委員長	<p>以上で令和5年度第2回水戸市協働推進委員会を終了する。</p>